

## 経歴

アン・チュリアン

1949	カンボジア、コンボン・クレアンに生まれる
1974	カンボジア王立芸術大学卒業(考古学)
1976	フランス社会科学高等研究院修士号(民族学)
1982	フランス社会科学高等研究院博士号(民族学) (クメール人の民間信仰についての論文で博士号取得)
1990-	カンボジア王立芸術大学考古学部教授 (1990-2006 カンボジア歴史人類学を担当、2007- クメール碑刻文学を担当)
1994-95	国立アンコール地域遺跡保存機構(略称アプサラ機構)設立および国際的枠組みづくりを担当
1995-2001	アプサラ機構遺跡文化局長
1995-	フランス極東学院特別研究員
1996	日本学術振興会特別研究員(3カ月)
1997-98	「アンコールワットとクメール美術の1000年展」学術監修(パリ、ワシントンD.C.、東京、大阪で開催)
2000-	カンボジア学術研究紀要『UDAYA(ウダヤ)』共同編集長
2001-04	アプサラ機構文化調査局長
2004-	アプサラ機構総裁顧問
2005	ワシントン国立ギャラリー研究員(カーペンター財団による助成、3カ月)
2005-	フレンズ・オブ・クメール・カルチャー顧問 研究紀要「KhmeRenaissance(クメール・ルネッサンス)」(クメール語)共同編集長
2006	民族誌映画『People of Angkor: life seen through rites of passage(アンコールの人々—通過儀礼を介して見られる日常生活)』監督
2008	京都大学東南アジア研究所客員研究員(6カ月)

## 主な著作

- 『クメール民族の民間信仰における超自然の存在』パリ、クメール文化文書・研究センター(Cedoreck), 1986.  
「女性の神聖性について」『Seksa Khmer』10-13号, パリ, クメール文化文書・研究センター(Cedoreck), 1987-90.  
「土と祖先—抽象性と擬人化」『Journal Asiatique』CCLXXXIII(283号), パリ, フランスアジア学会  
(Société Asiatique), 1995.  
『アンコール—過去・現在・未来』(共著・共編)(英語), プノンペン, カンボジア政府, 1996. [フランス語訳1997,  
クメール語訳1998]  
「ナンディンとその化身」『Angkor et dix siècles d' art khmer』パリ, フランス国立美術館連合, 1997.  
『ブルー・リン(魂を呼ぶ)』(英語・クメール語・フランス語3カ国語並記版) プノンペン, レウム・インスティ  
チュート, 2004.  
「死と再生の図像的具現化」『UDAYA(ウダヤ)』第5号, プノンペン, 2004.  
「初期バイヨン」『バイヨン—新しい視座』(英語), バンコク, リバーブックス, 2007.  
『通過儀礼を介したクメール人の日常生活』(共著)(クメール語), プノンペン, ハヌマン・ツーリズム, 2007.  
『アンコールを越えて』(共著), バンコク, リバーブックス, (近刊予定).  
『クメール碑文の構成要素』(クメール語), (近刊予定).

※言語記載のないものはフランス語